

P2-003

地域支援・地域連携における大学の役割
—子育て期のニーズ調査—

二重 佐知子、郷間 英世

姫路大学 看護学部 看護学科

【研究目的】子育てをしている人々の生活の質の向上を目指した地域支援・地域連携に関連した大学の役割を検討する。

【研究方法】保育所等に通う乳幼児の保護者を対象に、地域支援、地域連携に関連した大学に期待するニーズとその理由についてアンケート調査をした。調査時期は、2019年7月～8月であった。研究者が所属する大学の倫理審査を受けた（承認番号：2019-N04）。

【研究結果】対象者は男性3名、女性97名であった。年齢は20歳代が7名、30歳代が66名、40歳代が29名、60歳代が1名であった。養育している子どもの人数は、1人が20名、2人が47名、3人が23名、4人が3名、5人が2名であった。子育て期の人々において大学に期待するニーズで1番多かったのは、「子どもの食事や栄養に関すること」であり、その理由は、児の偏食、栄養バランスや小食の対策等であった。2番目に多かったのは、「子どもの発育や発達に関すること」であり、その理由は、児の発達障害、言葉の遅れ、吃音等であった。3番目に多かったのは、「子どもの遊びに関すること」であり、その理由は、スマートフォンやゲーム、タブレット等の付き合い方や年齢に合った遊びを知る等の要望であった。また、保護者同士の仲間づくりや地域のコミュニティとのつながりを希望する等、地域連携に関する要望があった。

【考察】大学の役割は大きく教育、研究、地域貢献に分けられる。本研究では大学が担う地域支援・地域貢献を検討するため、子育て期の人々に大学に期待するニーズを調査した結果、食事や栄養、発育や発達、遊びに関する情報の要望が多かった。また大学を基点とした地域連携の要望が把握できた。核家族化が進み、家庭や地域での子育ての支援が少なく、育児期の親は負担感、孤立感を抱え、子育てに対して困難感を持っている親が増加している中、今回の調査より、子育て期の具体的なニーズが把握でき、大学が担う地域支援・地域連携の役割が明らかになった。本研究におけるCIOの申告はない。

P2-004

ファシリテーションによる就学前の子育て家族支援
—Nobody's Perfect Programの現状と今後の課題—大豆生田 千夏¹⁾、齋藤 幸子²⁾、櫃田 紋子¹⁾、上田 よう子³⁾、横尾 暁子⁴⁾、伊志嶺 美津子¹⁾

子ども家庭リソースセンター¹⁾、
子どもと家族支援研究センター²⁾、
洗足こども短期大学 幼児教育保育科³⁾、
田園調布学園大学 子ども未来学部 子ども未来学科⁴⁾

【目的】2018年の「ファシリテーションによる産後早期の子育て家族支援—「赤ちゃんを創るわたしの家族」プログラムの意義と効果—」に続いて、今回は就学前の子育て家族支援について検討する。カナダで生まれた親育ち支援プログラム、Nobody's Perfect（以下NP）を1990年代後半から日本に紹介、現在プログラムが各地で実施されている。NPは就学前の子どもを持つ親を対象とし、NPファシリテーターの進行で週一回2時間、全6～8回のセッションで、体験から学ぶことと価値観の尊重を鍵概念とし、少人数、参加者主体で行われる。虐待や少子化等課題の多い日本の子育て支援におけるこのプログラムの現状を最近のNP研究から明らかにし、今後のより有効な活用を探ることを目的とする。

【方法】文献検索はCiNiiを使用し、「Nobody's Perfect」をキーワードとし論文38件を抽出した。その中から2010年以降の18件を分析した。

【結果】NPの実践と評価に関するものが12件、紹介が4件、NPを参考に新しいプログラムを作成し報告するものが2件であった。多くの実践報告の中で「ひとりではない」という安心感、価値観の尊重による自己肯定感の高まり、多様な価値観に触れ視野を広めるという親育ち支援としての有効性が立証されている。NPを応用した実践でも同様の効果が得られている（木村2018）。望月らはエンパワメントの概念に基づいて類型化し、プログラムの構造的分析を行った（2013）。理念及びファシリテーションの手法に関わる研究は今回抽出されなかった。

【考察】人をつなげ、自己肯定感が高まるという効果が広く安定して得られることが、実践報告から確認された。また、エンパワメントの概念からNPを検討した論文では、プログラムの有効性ととともに、NPの構造的効果が考察された。NPの理念には多様性の尊重、当事者主体、問題予防が含まれ、どれも緊急の今日的課題であり、それを研究する意義は大きいと言える。ファシリテーションにより当事者同士で課題を共に考え、進行役とも互いにエンパワーされるNPの理念と手法は大きなヒントとなるであろう。

【結語】少子化対策に終始する日本の子育て支援の中で、個人の価値観を尊重しエンパワーすることによって家族や地域社会の充実をも視野に入れるNPの理念には、親育ち支援にかかわる重要な示唆が含まれている。今後この理念が研究され、実践により広く伝えていくことが有効であると考えられる。